

みどり

# 緑のかけはし

〈第15号〉

〒981-8555  
仙台市青葉区堤通  
雨宮町1番1号  
東北大学農学部・  
農学研究科  
国際交流委員会  
No.15 March 2015

International Communication for Division of Agriculture (ICDA)



## へいわ あんぜん く 「平和で安全に暮らせる ちきゅう 地球になるために」



とうほくだいがくだいがくいんのうがくけんきゅうかちょう のうがくぶちょう こま い みち お  
東北大学大学院農学研究科長・農学部長 駒井 三千夫

のうがくけんきゅうかちょう けんのうがくぶちょう つと こまい もう ことし さくねんどまつ ねん がつ あら  
農学研究科長、兼農学部長を務めております駒井と申します。今年は、昨年度末（2014年3月）に新たに  
「バングラデシュのダッカ大学生物科学部」を、部局間交流協定校として締結することができました。  
とうけんきゅうか こくさいこうりゅう なかま ふ じっさい だいがく ねんれんぞく はくしかていこうき  
当研究科の国際交流の仲間が増えたこととなります。実際に、ダッカ大学からは2年連続して博士課程後期  
かてい にゅうがく さいきん たんきりゅうがくせい う い はけん ふ まい  
課程に入学していただきました。また、最近では短期留学生の受け入れと派遣が増えて参りました。アジ  
ア地域ばかりでなく、欧米からの短期留学が増えていると言えましょう。このような状況のため、授業  
ちいき おうべい たんきりゅうがく ふ い じょうきょう じゆぎょう  
を英語で行うばかりでなく、教務の掲示板の英語併記やオリエンテーションも日本語と英語で行う必要性  
えいご おこな きょうむ けいじばん えいごへいき にほんご えいご おこな ひつようせい  
を感じております。皆さんのアイデアも教えてくだされば幸いです。

さて、当学部で英語教育も担っていたいでいる先生には、色々なサジェスチョンをいただきました。  
こくさいがくし みな がくしえん じゅうぶん こと りゅうがくせい みな じゅうきよ かんきょう じゅうぶん  
国際学士コースの皆さんへの学資支援が十分ではない事、留学生の皆さんの住居の環境が十分ではない  
こと 国際 にはんこくない えいご つか ひと すく す こと ふべん おも  
事、などです。また、日本国内で英語を使える人が少な過ぎる事も不便だと思います。たとえば、NHKニ  
ューズ なが えいご ぶぶん にほんご ふ か こと いっぽんこくみん えいご  
の生の英語の部分が日本語にわざわざ吹き替えられてしまうことなどで、一般国民にはまだまだ英語  
が浸透できていないことなどが指摘されています。オランダのように、どのような職種の人でも英語が気軽に  
つか くに よ  
使える国になるとより良いことでしょう。

最後に世界平和と人類の共存について、ひと言申し上げたいと存じます。皆さん、地球は一つしかなく、  
じんるい へいわ ほんえい まも ちきゅう かんきょう まも こと せんそう へいわ い じ こと  
人類の平和と繁栄を守っていくには、地球の環境を守る事と、戦争をなくして平和を維持していく事が  
じゅうよう じんしゅかん あらせ しゅうきょうかん たいりつ ひんぶ さ あらせ かいけつ  
重要です。人種間の争いや宗教間の対立、あるいは貧富の差の争いなど、すべて解決していかなければ  
なりません。人間の恨みは、同じ人種内でも国内においても生じます。この恨みや仕返しなどが生じない  
にんげん うら おなじ じんしゅない こくない しょう しょう しかえ しょう  
ようにしていく事が重要です。世界の各地から争い事を無くして、平和な地球を作っていかなければなり  
ません。

げんざい まいにち せんそう つづ ちきゅう かんが みな せんもん  
現在のように、毎日のように戦争が続いているこの地球を、どのように考えますか？ 皆さんは、専門  
りょういき べんきょう ちきゅう へいわ まも じゅうよう たちば た おも  
領域のことを勉強するとともに、地球の平和を守っていくうえで重要な立場に立っていると  
じんるい へいわ ほんえい あらた かんが さいわ みな みな けんこう こんご さら  
人類の平和と繁栄について、改めて考えてみていただければ幸いです。皆さんのご健康と今後の更なるご  
かつやく きたい  
活躍を期待しております。

# 留学生紹介

昨年4月・10月に23名が新たに留学生としていらっしゃいましたのでご紹介します。

## 事項

1. 国籍
2. 在籍課程 (2015年3月現在)
3. 所属分野
4. 研究テーマ
5. 出身校
6. 趣味・特技
7. 自己紹介

## ngo, Anh Quynh

1. ベトナム社会主義共和国
2. 学部1年生 (FGL)
3. 国際海洋生物科学コース
4. -
5. ハノイ アムステルダム高校



私は18歳で、ハノイから来ました。国際海洋生物科学コースの一年生です。私はスポーツが好きで、特にバトミントンが大好きです。バトミントンは10年位前に始めました。大学では東北大学Aviation Clubのメンバーです。来日したばかりなので、日本語があまり上手ではないので、日本人の友達とは英語で話をしています。どうぞ宜しくお願い致します。

## AINAYA, Qarri

1. インドネシア共和国
2. 学部1年生 (FGL)
3. 国際海洋生物科学コース
4. -
5. MAN Insan Cendekia Serpong
6. 写真, グラフィックデザイン, 読書
7. Spending last three years in a boarding school has given me an opportunity to learn more about myself, my dreams, and my purposes. I aim myself to preent some contribution for the sake of people, and give better impacts in life, although minor. Hence, I genuinely am thankful to be able to continue my study in Tohoku University, Japan, as a milestone in reaching my dream. Even though I've mapped things I want to do, I still easily find joy in my life. Through photography and books, I can get lost between colors and words.



## PANDJAITAN, Hanna Mutiara

1. インドネシア共和国
2. 学部1年生 (FGL)
3. 国際海洋生物科学コース
4. -
5. SMAN 10 Malang (Sampoerna Academy)
6. 旅行, 映画鑑賞, 読書



My name is Hanna Mutiara Pandjaitan. You can call me Hanna. I am an 18 years old girl from Indonesia. I am taking Applied Marine Biology as my major. I do hope I can learn a lot of things in this course so that I can fulfill my dream and develop the marine sector in my country. Since I am a first-year student, I might need a lot of help. Nice to meet you all. I am looking forward for the amazing experiences in this course. どうぞ宜しくお願い致します。

## HADISUMARTO, Naomi

1. インドネシア共和国
2. 学部1年生 (FGL)
3. 国際海洋生物科学コース
4. -
5. Al-Izhar Pondok Labu
6. 太鼓の達人, カラオケ, 野球観戦
7. Hello, my name is Naomi and I am from Indonesia. I am a first year student majoring in Applied Marine Biology of FGL course. My Japanese language is currently very limited, so I hope we can have a conversation in Japanese. I love to play arcade games, especially taiko. I like to watch baseball games, both from television or live. I also like to sing, so let's go karaoke together. I hope we can have a great year ahead. どうぞ宜しくお願い致します。



とん じあり  
童 佳麗

ちゅうかじんみんきょうわこく

1. 中華人民共和国
2. 博士前期課程1年
3. 生物海洋学
4. ー
5. 上海海洋大学
6. 読書, 卓球, 中国将棋



I graduated from Shanghai Ocean University. The year before last year I got the opportunity to study here as a one-year exchange student. Now I am a graduate student in Tohoku University. With the help of laboratory members, I lead a fresh and happy life here. I love the wide blue ocean and the mysterious biology. And I feel so grateful and precious for everything here. I am a girl who never gives up pursuing my dreams. Every single piece melody of music or experience can leave me peaceful thoughts but enthusiastic attitude for the life. This is me, out-going, a little bit crazy, love life, love science, love creation, and never give up trying.

きよ しゆん  
許 駿

ちゅうかじんみんきょうわこく

1. 中華人民共和国
2. 博士前期課程1年
3. 動物微生物学
4. バクテリア運動性
5. Centro Escolar 大学
6. 読書, プログラミング



許駿と申します。2014年にフィリピンの Centro Escolar 大学生物専門を卒業しました。同年来日し、現在はけんきゅう おこな にはん せいかつ たの 研究を行いながら、日本での生活を楽んでいます。

そう めいとう  
曹 銘涛

ちゅうかじんみんきょうわこく

1. 中華人民共和国
2. 博士前期課程1年
3. 集団遺伝情報システム学
4. グッピーのメチル化におよぼす温度と無機塩の影響
5. 上海海洋大学



撮影, ジョギング, レーシングカート  
内向的な性格です。2012年に来日し、成田で品質管理の仕事を2年間経験しましたが、スキルアップのため、東北大学への入学を決断しました。大学の学部での専門は食品におよぼす抗酸化と抗菌でしたので、今は遺伝子学を基礎から勉強しています。どうぞよろしくお願ひします。

そりごが  
蘇日古格

ちゅうかじんみんきょうわこく

1. 中華人民共和国
2. 学部研究生



フィールド社会技術学  
内モンゴル自治区の東部地域における牛肉生産システムに関する研究  
中国内モンゴル 呼和浩特民族学院大学  
スキー, 旅行, いろいろな国の伝統文化を知る  
ソリゴガと申します。中国内モンゴル出身です。2010年に内モンゴルフフホト民族学院大学の経済学部市場販売学分野を卒業しました。大学での勉強を進めるなかで、内モンゴルの牛肉生産及び牛肉の市場販売が不安定であることを知り、地元生まれ育った若い者として、効率的な方法を提案したいと考えようになりました。しかし、一大学生としての私の知識や経験は非常に浅く、専門的な知識はもちろんのこと、先端的な研究を行っている研究者たちと一緒に研究や交流を行うことは非常に重要だと思い、先進国に留学し農業経営に関わる知識を学びたいと考えようになりました。また大学の先輩が日本に留学していたこと、彼らから日本の素晴らしところを伺い、先進国の中でも日本を選びました。今年から東北大学農学部に入學できて本当に嬉しいです。せっかくの留学の機会を大切に、自分の夢を実現するために一所懸命頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

していぬーるじやな  
Siti Nurjanah

きょうわこく

1. インドネシア共和国
2. 学部研究生
3. 動物栄養生化学
4. Effect of Antioxidant Supplementation on Heated Stress Broiler Chickens
5. ボゴール農科大学
6. 映画鑑賞



After got 6 months experience in 2012 as student exchange at Tohoku University, I always want to back to Japan. Now, here I am, back to Sendai feels like back to my hometown. I am very glad I get opportunity to take master courses at Tohoku University. Beside I have to study hard for my entrance exam, I also want to discover Miyagi prefecture. I want to go to nice place where I never know it before.

とう めいかん  
杜 明軒

ちゅうかじんみんきょうわこく

1. 中華人民共和国
2. 学部研究生
3. 食品化学
4. 植物性食品の成分の  
生体調節の作用
5. 東北農科大学
6. 水泳, 絵画, スポーツ, 料理
7. 私の故郷は中国の一番寒い省ですが、故郷の冬は  
仙台市の冬のように美しいです。私は趣味が多く、たと  
えば音楽、絵画、サッカーなどですが、一番好きなのは  
水泳です。また美味しい物を食べることも、私の趣味の  
一つです。私の専門の食品化学は、人々の健康に  
かかわることなので、とても重要な学科のひとつだと考  
えています。今後の希望は大学での勉強と生活のなかで、  
友達を増やしたいと思っています。日本でこれから起こる  
すべてのことに期待しています。



な ね ら  
NANE, La

きょうわこく

1. インドネシア共和国
2. 学部研究生
3. 水圏植物生態学
4. Effect of population explosion of  
the sea urchin *Mesocentrotus nudus*  
on a bed of the fucoid *Sargassum*  
*siliquastrum* in a shallow waters off Kesennuma in  
northern Miyagi, Japan
5. ハサヌデイン大学
6. スキューバダイビング, 水泳
7. My full name is La Nane. You can call me, Nane. I  
am from Indonesia. My research theme for my  
master course is about sea urchin. Formerly I also  
have been research sea urchin at Indonesia as my  
undergraduate thesis. I interested to study sea  
urchin because its an economically-important  
fisheries. Both country, Indonesia and Japan had  
been consuming sea urchin gonad in a long time.  
Therefore I guessed that in both country where had  
done the highest fishing will effect sea urchin  
population to overfishing or decreasing of population  
in the nature like density, biomass, etc. and I am  
interested to study its.



とう びれい  
唐 美玲

ちゅうかじんみんきょうわこく

1. 中華人民共和国
2. 学部研究生

かんきょうけいざいがく

3. 環境経済学
4. 持続可能な地域づくりと観光の  
共生に関する研究
- 一烏鎮を例として—
5. 寧波工程学院
6. 料理
7. 私は唐美玲と申します。出身地は中国浙江省寧波  
市で、中国の南にあります。大学の専門は日本語だっ  
たので、日本に留学に来ました。趣味は特にないですが、  
気分がよい時には、料理をすることが好きです。どうぞ宜  
しくお願い致します。



する た な は り ま  
SULTANA, Halima

1. バングラデシュ人民共和国
2. 大学院研究生
3. 栄養学
4. —
5. ダッカ大学
6. 料理
7. I am Halima Sultana. I am from Bangladesh. I am  
here to pursue PhD under MEXT scholarship  
program. Now I am in Laboratory of Nutrition as  
Graduate Research student. I live in International  
House Sanjo I. My family lives in Bangladesh. I  
have three sisters and one younger brother. My  
father is a businessman and my mother is a  
housewife. My husband is a government service  
holder. I like the environment of Sendai. I am very  
happy to get the opportunity to study in Tohoku  
University.



て い て い ふ り ー と ん ち や い  
THITIPHUREE, Tongchai

1. タイ王国
2. 大学院研究生
3. 水圏動物生理学
4. Elucidation of biosynthetic pathway  
for steroids of Japanese scallop  
*Patinopecten yessoensis* (Jay, 1857)
5. チュラーロンコーン大学
6. スポーツ (バドミントンなど)
7. Hi, everyone. My name is Tongchai Thitiphuree.  
You can call me in my nick name "NU". I really like  
to play badminton. I am Thai native people and  
was born at Phuket province. Now, I am attending  
to doctoral course at graduate school of agricultural  
science in aquacultural biology laboratory. My  
interested field of the study is physiology and  
reproduction of bivalve mollusk.



か しやおる  
何 晓露

ちゅうかじんみんきょうわこく

1. 中華人民共和国
2. 特別聴講学生
3. 水産資源化学
4. 水産食品の安全性に関わる研究
5. 上海海洋大学



おんがく  
6. 音楽

わたし かしやおる もう しゅっしんち ちゅうごくあんきしょう

7. 私は何晓露と申します。出身地は中国安徽省です。

しょくひんかがくおよ こうてい せんこう せいやく あか  
食品科学及び工学を専攻しています。性格は明るく、  
ひと つ あ けんきよ こころ せつ べんきょう  
人と付き合うときは謙虚な心で接しています。勉強  
たい しんけん せきにんかん も いま  
に対しては真剣で、責任感を持っています。今はまだ  
にほんご じょうず いっしょけんめい  
日本語はあまり上手ではありませんが、一所懸命に  
がんば よろ ねがいた  
頑張ります。どうぞ宜しくお願い致します。

りゅう しんじゅ  
劉 晋儒

たいわん ちゅうかみんこく

1. 台湾 中華民国
2. 特別聴講学生 DEEP
3. 国際開発学
4. ー
5. 国立台湾大学



えいがかんしょう  
6. バレーボール, 映画鑑賞

たいわん き こうかんりゅうがくせい りゅうしんじゅ もう

7. 台湾から来た交換留学生の劉晋儒と申します。

せんこう のうぎょうけいざい いま とうほくだいがくこくさいけいざい  
専攻は農業経済です。今は東北大学国際開発学  
けんきゅうしつ べんきょう かいほつけいざいがく たいわん  
研究室で勉強しています。開発経済学は台湾の  
けいざいがく けんきゅうぶんや なか にほん き はじ  
経済学の研究分野の中にはなく、日本に来て初めてそ  
けんきゅう りょういき ふ こ いま  
の研究の領域に踏み込んだので、今はまだわからな  
いことがたくさんあります。私にとって、開発経済学  
し みち りょういき にほん き  
は知らない未知の領域ではありますが、日本に来たから  
こそ学べる知識なので、とても興味深いと思っています。  
よびちしき も しよしんしゃ わたし たす  
予備知識を持っていない初心者私を、いろいろ助け  
てくれて有難うございます。これから残りの半年間も  
よろ ねが いた  
どうぞ宜しくお願い致します！

りむ やん るい  
LIM, Yan Rui

きょうわこく

1. シンガポール共和国
2. 特別聴講学生  
Junior Year Program in English
3. テラヘルツ食品工学
4. Survival Count of E. Coli  
Population after heat treatment
5. シンガポール国立大学



りくじょうきょうぎ

6. スポーツ (陸上競技, バドミントン, スカッシュ), 古箏

7. I'm majoring in Food Science and Technology back in my home university, and I chose to delay graduation to do this exchange semester with Tohoku University. In 2014, I travelled to many countries, and Japan is the fifth country. What fascinates me the most is the pride Japanese has for their culture and I hope to discover through conversation with Japanese. As I have begun my Japanese lessons, I look forward to conversing in Japanese.

わん いりん  
汪 怡臨

ちゅうかじんみんきょうわこく

1. 中華人民共和国
2. 特別聴講学生

Junior Year Program in English

3. 動物遺伝育種学
4. The effectiveness of selection concerning reproductive traits of the pig
5. 揚州大学
6. 箏



7. I am Wang Yilin, 汪怡臨, from China. My home University is Yangzhou University and my major is Animal Science. I live in Suzhou, a city with a long history on the shores of Lake Taihu in Jiangsu, China. Japan is one of Asia's Four Little Dragons, drawing my attention with its culture, ancient architectures and delicious food, which is one of the reasons I chose to study in Tohoku University. Besides, this is a world-famous university with professional staff and faculty, for me, to study at such a well-known university will provide me a big step toward my aim.

か す じ ゃ ん ま し ゅ ー ま ー く  
KASJIAN, Matthew Mark

1. オーストラリア連邦
2. 特別聴講学生

Junior Year Program in English

3. 分子酵素学
4. PAR14 CRISPR/CAS9 Gene Knockout Study



5. ニュー・サウス・ウェルズ大学

6. 映画鑑賞, 音楽鑑賞, 写真を撮ること, コーヒーをの飲むこと

7. 皆さん、こんにちは！ぼくはマシューです。マットと呼んでください。21歳です。シドニーからきました。ぼくのせんもん せいぶつがく えいご  
専門は生物学で、英語では「Medical Microbiology and Immunology」です。今は仙台に住んでいます。今年の8

がつ 月にはオーストラリアに帰ります。短い滞在ですが、  
でき おお ひびと し あ よろ  
出来るだけ多くの人々と知り合いたいです。どうぞ宜しく  
ねが いた  
お願い致します。

う おん じょあん ぼーる  
**WONG, Joanne Pearl**

1. アメリカ合衆国  
とくべつちようこうがくせい
2. 特別聴講学生  
Junior Year Program in English  
かんきょうけいざいがく
3. 環境経済学
4. Differences in Perception of  
Games by Different Countries
5. ドレクセル大学  
だいがく
6. ダンス, ビデオゲーム
7. My name is Joanne Wong. I came from America. I am a fourth-year Software Engineering (programming) student from Drexel University in Philadelphia, Pennsylvania. I am participating in Tohoku University's JYPE program for half a year and will be returning to America in the middle of February. I am interested in game development and programming, especially Japanese games. Kitani-sensei is my advisor here. My first time in Japan was for the CEDEC conference in 2013, so this is my second time. I really like Japan, so even though I am going back to America soon, I definitely want to come back!



あまる で い な どうり わ は ゆ  
**ALMADINA, Tri Wahyu**

1. インドネシア共和国  
とくべつちようこうがくせい
2. 特別聴講学生  
Junior Year Program in English  
せいぶつきょうせいかがく
3. 生物共生科学
4. Plant characteristic (*Machilus thunbergii*) based on the seed source.
5. ガジャ・マダ大学  
だいがく
6. 読書, 旅行, 登山  
どくしょ りょこう とざん
7. I was born in Pacitan Regency, East Java. I am 24 years old and I really like reading. My major is Forest Management at Gadjah Mada University, Indonesia. I am a social and environmental-oriented figure. I always do something environmental friendly and deep thinking about social/life condition about rural community. I often doing some environmental research concern in reservation and rehabilitation, such as land



conservation and mitigation. Beside that I also put my interest in social empowering activity. My environmental and social project are in Gunung Kidul Regency, Yogyakarta; Puncak Regency, Papua; Kebumen Regency, Central Java.

ぼ まんだらわ  
**亭 曼德尔娃**

1. 中華人民共和国  
ちゅうかじんみんきょうわこく
2. 特別聴講学生  
とくべつちようこうがくせい
3. 国際開発学  
こくさいかいはつがく
4. Land rights  
ちゅうおうみんぞくだいがく
5. 中央民族大学  
かんしやう
6. ライブショーの鑑賞, ハイキング
7. It's an honor to have a chance to introduce myself. My name is Mandarwa and my hometown is in the most northern of China -Hulun Buir. It's a wonderful place that has broad grasslands, primeval forest and beautiful snow. I like watching all kinds of live show. I think there are more fun to enjoy the performance in a direct way, and I like natural environment, so I like to have outing in a sunshine day. This is my first time to come to Japan, and I like Sendai and hoping make friends with others in here.



で ら び こ ら くりすちあーの  
**DELA PICCOLLA, Cristiano**

1. ブラジル連邦共和国  
だいがくいんとくべつけんきゅうがくせい
2. 大学院特別研究学生  
さいばいしよくぶつかんきょうかがく
3. 栽培植物環境科学
4. Training period on methods in  
Arbuscular Mycorrhizal fungi  
studies
5. サンパウロ大学  
だいがく
6. ギターを演奏し歌うこと, サッカー, トレッキング, 釣り  
えんそう うた
7. I was born in Xanxerê City, south region of Brazil in 1988. I got my undergraduate degree in Agronomy at Santa Catarina State University and master's degree in Soil Science and Plants Nutrition Program at University of São Paulo. I have been working with the effect of biochar on soil phosphorus (P) dynamics and P absorption by plants since my master's degree. I am funny, open-minded and reliable person. I seek to know new cultures and I am open to meet people who want exchange professional skills, culture and hobbies. For that, I would like to encourage anyone to contact me.



# 平成26年度学術交流協定校間交流および活動実績報告

## 中国海洋大学（中国）

水圏植物生態学分野 教授 吾妻 行雄

2014年11月16日から2014年11月30日に、平成26年度の農学部短期招聘留学生事業により中国海洋大学の博士課程後期1年の于佳さんと博士前期課程1年の陳俊琳さんが水圏植物生態学分野に來られました。お二人は海藻の生理生態学的な研究を行っています。研究室における海藻と植食動物を扱った実験への参加、お二人の研究紹介、そして、研究室のゼミへの参加を通じて活発な交流を行いました。お二人の希望で女川のフィールドセンターを訪問し、池田実先生から新しい施設の案内と研究の詳細な説明をいただきました。また、宮城県漁業協同組合の七ヶ浜水産振興センターを訪問し、元気仙沼水産試験場長の佐々木良氏より、ノリ養殖およびウニとアサリの人工採苗など、施設内で行われている具体的な生産工程についてお話を伺いました（写真参照）。帰国後、お二人の短期留学の報告会があり、大変有意義な訪問であった旨、指導教員の李景玉准教授より連絡がきました。お二人の研究に対する高いモチベーションに日本人学生も刺激を受けたことと思います。



左から2人目と3人目が、それぞれ于佳さんと陳俊琳さん。右端が佐々木良氏。

## 沿岸生物生産システム学分野 准教授 池田 実

沿岸生物生産システム学分野では、李琪教授を中心とする中国海洋大学水産学院の研究者との間で10年以上におよぶ交流が続いています。李教授は、東北大学大学院農学研究科で学位を取得した後、中国海洋大学で貝類およびナマコ類の遺伝育種学的研究を精力的にすすめています。昨年度からJST産学連携プロジェクト「閑上地域の産業復興・新生に向けたアカガイの高効率複合生産システムによるグローバル増養殖産業の開発」（代表者：木島明博教授）がスタートし、中国海洋大学が保有する広大な養殖施設を試験地としてアカガイの効率的生産システムの開発研究を行っています。2014年は、私たちが3月と10月に中国海洋大学に滞在し、実験で飼育されているアカガイの生育状況の調査を行いました。また、5月には李教授をはじめとする中国海洋大学の貝類増養殖に関する研究者のみなさんが訪日し、木島教授とともに新潟県水産海洋研究所佐渡水産技術センターの視察を行いました。



ようしよくしせつ ちょうさ ようす  
養 殖 施設でのアカガイ 調査の様子



ちゅうごくかいようだいがく かんげいかい ようす ちゅうごくご ともだち  
中国 海洋大学での歓迎会の様子。中国語で友達をあら  
わす「朋友」と書かれたカードを付けています。

■ ようしゅうだいがくどうぶつ か がく き じゆつがくいん ちゅうごく  
揚 州 大 学 動 物 科 学 技 術 学 院 ( 中 国 ) ■

ようしゅうだいがくどうぶつかがくぎじゆつがくいん とうほくだいがくのうがくけんきゅうか  
揚 州 大 学 動 物 科 学 技 術 学 院 と 東 北 大 学 農 学 研 究 科  
は、2004年12月に部局間学術交流協定を締結し、  
しよくいん だいがくいんせい がくじゆつこうりゅう けいぞくてき かつぼつ じっし  
職 員 ・ 大 学 院 生 の 学 術 交 流 を 継 続 的 に 活 発 に 実 施  
せいか みと ねん がつ だいがくかん  
した。この成果が認められ、2008年6月には大学間  
こうりゅうきょうていけい はってん だいがくかんこうりゅうきょうてい もと  
交 流 協 定 締 結 に 発 展 した。大 学 間 交 流 協 定 に 基  
づき、大 学 院 生 の 相 互 交 流 の た め、揚 州 大 学 から  
だいがくいんせい たんきりゅうがく まいとしう い がくせい  
大 学 院 生 の 短 期 留 学 を 毎 年 受 け 入 れ て、学 生 を  
たいしやう どうぶつかがく たい けんきゅうかい じやうほうこうかん  
対 象 と した 動 物 科 学 に 対 す る 研 究 会、情 報 交 換、  
けんがく おこな  
見 学 な ど を 行 っ て い る。

こんねんど  
今年度は、陳銀岳 (Yinyue Chen) さん、劉正旭  
(Zhengxu Liu) さん、陳志遠 (Zhiyuan Chen) さ  
ねん がつ か がつ にち にちかん とうほく  
んが、2014年10月5日から10月22日まで18日間の東北

だいがくのうがくけんきゅうかおうようどうぶつがくけい ほうもん くれ  
大 学 農 学 研 究 科 応 用 動 物 学 系 へ の 訪 問 と な っ た。彼 ら は 揚 州 大 学 動 物 科 学 技 術 院 に 所 属 し て、動 物 飼 養 学、  
どうぶつはんしよくがく どうぶつくけいしよくがく せんこう ぶん やほうもん さい けんきゅうないよう せつめい う かんてん  
動 物 繁 殖 学、動 物 育 種 学 を 専 攻 し て い る。分 野 訪 問 の 際 は 研 究 内 容 の 説 明 を 受 け、そ れ ぞ れ の 観 点 か ら  
せつきまてき しつもん しよぞくがくせい した こうりゅう かわたびのうじやう かく  
積 極 的 に 質 問 し、所 属 学 生 と 親 し く 交 流 を し ま し た。川 渡 農 場 に は 2 泊 し ま し た。

かわたびのうじやう ふく おうようどうぶつかがく しよぞく すべ けんきゅうしつ ほうもん きやういん がくせいたち  
川 渡 農 場 を 含 め、応 用 動 物 科 学 コー ス に 所 属 す る 全 て の 研 究 室 を 訪 問 し、教 員 な ら び に 学 生 達 と の  
こうりゅう おこな ほんがく がくせい いっしよ せんたいけんこう たの ほんがく だいがくいんせい  
交 流 を 行 い ま し た。祝 日 は、本 学 の 学 生 と 一 緒 に、仙 台 観 光 を 楽 し み ま し た。ま た、本 学 の 大 学 院 生  
おうようどうぶつかがく かくけんきゅうしつ めい さんか あいて くれ ちゅうごく おこな けんきゅう  
( 応 用 動 物 科 学 コー ス の 各 研 究 室 か ら 2 - 3 名 が 参 加 ) を 相 手 に、彼 ら が 中 国 で 行 っ て い る 研 究 を プ レ  
せんたーしよんして くれ ま し た。本 交 流 が 益 々 発 展 し、特 に 両 大 学 の 若 い 学 生 達 が 交 流 を 通 し て、お 互 い  
しげき あ かんけい きたい つよ かん  
を 刺 激 し 合 え る 関 係 に な る こ と を 期 待 し た い と 強 く 感 じ ま し た。

ほんこうりゅうじぎやう じっし とうほくだいがくだいがくいんのうがくけんきゅうかこくさいこうりゅういんかい こくさいこうりゅう もくてき たんき  
本 交 流 事 業 を 実 施 で き た の は、東 北 大 学 大 学 院 農 学 研 究 科 国 際 交 流 委 員 会 「 国 際 交 流 を 目 的 と し た 短 期  
しやうへいりゅうがくせいじぎやう けいひ しんせい たいざいけいひ みと かげ あらた かんしや  
招 聘 留 学 生 事 業 に か かる 経 費 」 に 申 請 し、滞 在 経 費 が 認 め ら れ た お 陰 で あり、改 め て 感 謝 い た し ま す。ま  
おうようどうぶつがくけいしよくいん がくせい みなさま とく ちゅうしんてき はたら おうようどうぶつがくけいしよくいんちやうたねわら  
た、応 用 動 物 学 系 職 員 と 学 生 の 皆 様、そ し て 特 に 中 心 的 に 働 い て い た だ い た 応 用 動 物 学 系 委 員 長 種 村  
けんたろうきやうじゆ きやうりよく かんしや  
健 太 郎 教 授 の 協 力 に 感 謝 い た し ま す。

おうようせいめいか がくせんこう きやうじゆ あ そう ひさし  
応 用 生 命 科 学 専 攻 教 授 麻 生 久



りゅうがくせい めい どうぶつせいりがくけんきゅうしつ こうりゅう  
留 学 生 3 名 の 動 物 生 理 学 研 究 室 で の 交 流  
ひだり かとうかずおきやうじゆ ちえんちゆえんくん  
( 左 か ら、加 藤 和 雄 教 授、陳 志 遠 君、  
ちえんいんゆえんくん りゅうぜんしゆくん ろーさんぐんじゆんきやうじゆ  
陳 銀 岳 君、劉 正 旭 君、盧 尚 建 准 教 授。 )



きのうけいたいがくぶんや じゆんきようじゆ のちとも のり  
機能形態学分野 准教授 野地 智法

ほんがく ようしゅうだいがく けんきゅうこうりゅうきょううてい ていけつ  
本学と揚州大学との研究交流協定が締結されて以降、約10年の歳月が経ちます。揚州大学からは、  
まいとし めい だいがくいんせい しゅうしかてい とうほくだいがく ほうもん  
毎年3名の大学院生（修士課程）が東北大学を訪問し、21日間の短期留学として応用動物科学コースの  
きょういんおよ がつせい こうりゅう おこな にほん  
教員及び学生と交流を行っています。日本での

たん きりゅうがく けいけん ようしゅうだいがく だいがくいんせい  
短期留学を経験した揚州大学の大学院生からは、  
ほんがく はくしかてい にゅうがく ほんがく ようしゅうだいがくかん  
本学の博士課程に入学するなど、本学と揚州大学間  
こうりゅう ひじょう かつぱつ そうねん ほんがく  
の交流は非常に活発です。ここ数年は、本学から2  
めいほど きょういん まいとしようしゅうだいがく ほうもん こうぎ おこな  
名程の教員が毎年揚州大学を訪問し、講義を行っ

ています。今年は、私と農学研究科動物微生物学  
ぶんや よねやまゆうじゆんきようじゆ ちゅうごくようしゅうだいがく へいせい  
分野の米山裕准教授が、中国揚州大学を平成26  
ねん がつ にち にち ほうもん けんきゅう  
年10月12日から18日まで訪問し、研究および  
きょういく かん こうりゅう おこな しゃしん しゃしん  
教育に関する交流を行いました。（写真1、写真2）

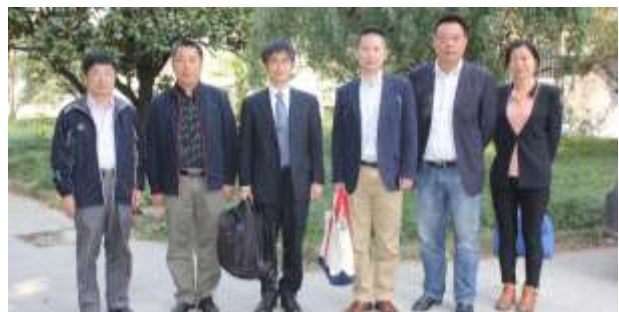
こうぎ ようしゅうだいがく しゅうしかてい はくしかてい  
講義には、揚州大学の修士課程および博士課程に  
しよぞく だいがくいんせいやく めい さんか ひじょう せいきょう  
所属する大学院生約50名が参加し、非常に盛況で  
ごご じ よねやませんせい ふたり こうぎ たんどう  
した。午後2時から米山先生と二人で講義を担当  
ましたが、毎日講義が終わると午後5時を既に回っ  
まいにちこうぎ お ごご じ すで まわ  
ているという状況でした。また、揚州大学の大学  
じょうきょう ようしゅうだいがく だいがく  
院生の英語のレベルは非常に高く、中国の英語  
いんせい えいご ひじょう たか ちゅうごく えいご  
教育のレベルの高さに驚かされました。（写真3、  
きょういく たか おどろ しゃしん  
写真4）

こうぎ さんか だいがくいんせい せんもん かちく  
講義に参加してくれた大学院生の専門は家畜  
えいようせいりがく さいきんがく めんえきがく せんもん  
栄養生理学ですが、細菌学および免疫学を専門とす  
よねやませんせい わたし こうぎ ひじょう きょうみ も き  
る米山先生や私の講義を、非常に興味を持って聞いて  
くれました。参加者全員が、日本の大学での研究  
てくれまして。参加者全員が、日本の大学での研究  
ひじょう きょうみ も がくせいたち  
非常に興味を持っているということが、学生達か  
らはっきりと感じられました。（写真5）

さいご さいご ちゅうごくゆ とこうひ  
最後になりますが、今回の中国行きの渡航費の  
いちぶ こくさいこうりゅういんかいけいひ ふたん いただ  
一部を、国際交流委員会経費で負担して頂きました。  
ぼ か おんれいもう あ  
この場を借りて、厚く御礼申し上げますとも  
とうほくだいがく こくさいこうりゅう ますます ほってん きねんいた  
に、東北大学の国際交流の益々の発展を祈念致  
します。



しゃしん わんがくぶちょう かいだん ぜんれつひだり  
写真1： 王学部長との会談（前列左から  
りんみいあおせんせい わんぢーゆえがくぶちょう やんぢやんびん せんせい  
林 淼先生、王志躍学部長、楊章平先生、  
ぢやおうぐおちーせんせい こうれつひだり よねやませんせい ほうこくしゃ  
趙 国琦先生、後列左から米山先生、報告者）



しゃしん ようしゅうだいがく  
写真2： 揚州大学キャンパスにて  
ひだり ぢやお ぐお ちー せんせい わん ぢー ゆえせんせい  
（左から、趙 国琦先生、王志躍先生、  
よねやませんせい ほうこくしゃ やんぢやんびんせんせい りんみいあおせんせい  
米山先生、報告者、楊章平先生、林 淼先生）



しゃしん よねやませんせい こうぎ ようす  
写真3： 米山先生の講義の様子



しゃしん ほうこくしゃ こうぎ ようす  
写真4： 報告者の講義の様子



しゃしん ようしゅうだいがくぢやお きょうじゆ  
写真5： 揚州大学 趙 教授  
ぜんれつみぎ にんめ けんきゅうしつ とも  
（前列右から6人目）研究室メンバーと共に

べきんこうぎょうだいがく ちゅうごく  
北京工業大学 (中国)

のうぎょうけいえいけいざいがくぶん や きょうじゆ い とぅ ふさ お  
農業経営経済学分野 教授 伊 藤 房 雄

2014年12月に「大規模自然災害からの農業・農村復興」をテーマに中国で現地調査をする機会があり、その一環として12月12日に東北大学と大学間協定校を締結している北京工業大学を訪れ、同大学経営管理学院にて震災復興に関するヒアリング調査を実施するとともに、伊藤房雄教授が、同学院の大学院修士課程の学生約30名を対象に、「近年の日本における農業経済学研究の動向とその特徴」および「健康情報が農産物需要に与える影響」と題する2課題について講義を行った。



いげんこうかん ようす  
意見交換の様子

その後、同学院の学院長劉超教授、副院長劉会政教授、国際交流合作所苗允副所長、および協定連絡責任者の趙立祥教授らと意見交換を行い、今後東北大学と北京工業大学とのさらなる交流発展に向けて、共同研究の推進を図るとともに学生・教員の交流をこれまで以上に活発化させることで合意した。

北京工業大学は、工学のみならず農学と関連の深い環境・資源保全の分野においても最先端研究に取り組んでいる中国有数の大学であり、今後は東北大学大学院農学研究科においても多面的な交流を加速させていきたいと考えている。



こうぎふうけい  
講義風景 1



こうぎふうけい  
講義風景 2

しゃんはいかいようだいがく ちゅうごく  
上海海洋大学 (中国)

すいさん しげん か がくぶん や じゆんきょうじゆ やま ぐち とし やす  
水産資源化学分野 准教授 山 口 敏 康

2014年度は学生間の交流が活発に行われました。6月には学部特別聴講生として上海海洋大学食品工程学院3年生何曉露君が仙台に到着しました。所定の手続きを終えて、海洋生物科学系の水産しげんか研究室に席をおき、学生実験、学部授業の受講を開始しました。また、水産食品の安全性に関する研究テーマで研鑽をつみました。10月には董佳麗君と曹銘涛君が大学院の前期2年の課程に



あき すいさんしげんかがくぶんや りょうこう たの おも で ひと  
秋の水産資源化学分野の旅行での楽しい思い出の一幕。前列中央(白い服)が何さんです。

入学し、それぞれ生物海洋学分野および海洋生命遺伝情報システム分野に所属されました。また、現在前期2年の課程には劉申請君が水産資源化学分野に王柳君が生物海洋学分野に在籍しており日々研究に取り組んでいます。

東北大学と上海海洋大学との交流は農学部との部局間交流から大学間交流に発展し、教職員を含めた交流を活発に繰り返してきました。今後、更なる交流が続くことを願っています。

## 国立台湾海洋大学 (台湾)

生物海洋学分野 教授 遠藤 宜成

平成26年11月9日から12日まで台湾北部の基隆にある国立台湾海洋大学を訪問しました。台湾訪問は東日本大震災の時以来になります(地震が起きる前に搭乗し、地震後に台湾に到着しました)。受け入れてくれたのは本研究室で博士の学位を取り、現在国立台湾海洋大学環境生物漁業科学学系の教授をされている蔣國平さんです。蔣さんは大学の海洋センター主任、海洋環境化学・生態研究所の所長を兼ねておられて大変多忙な方です。10日には学系の大学院生と数人の教員を対象に東北大学や農学部や海洋生物科学系を簡単に紹介し、その後で私の研究室の研究内容を話しました。私の研究室と蔣さんの研究室の研究内容は共通点が多く、セミナーの後でポストドクや大学院生とゆっくり話したり研究手法を説明してもらったりしました(写真1)。その中に鞭毛虫の電子顕微鏡観察の技術をデンマークで学んで来た人がいて、そのノウハウを教えてもらおうと考えています。滞在中に水産試験場の劉燈城さん(現在の水産資源生態学分野で博士号を取得)を訪ね試験場の施設や、たまたますぐ目の前に停泊していた台湾で最も大きい調査船を見学させてもらいました。劉さんはもう1年で定年だそうです。夕方には蔣さんも交えて3人で食事をしましたが、健康上の理由で断酒している私に合わせてアルコール抜き食事だったので申し訳なく思っています。次の日は蔣さんの研究室の学生や中国から来ている教員、学生と一緒に鼻頭角公園という角のように海に突き出た風光明媚な公園を散策し(写真2)、その後で仇分という山間の土地に小さな土産物屋がひしめき合っている観光地を観光しました。大変興味深い所でした。最近は大陸と台湾の間で学生や教員の交流が盛んになっているそうです。今回宿泊したのは基隆の街中にあるホテルで、有名な夜市にも近い所です。夜はほとんど出歩きませんが、毎朝丘の上にある公園や商店街を散歩しました。のんびり過ごすには最適の場所です。蔣さんは初めて長期に滞在した外国の町ということで仙台に特別愛着を感じていて、私が退職する前にサバティカルで仙台を訪問したいと考えています。その夢が実現することを祈っています。



写真1. 蔣さん(右端)とその研究室で鞭毛虫を研究しているポストドク



写真2 台湾東北端にある鼻頭角公園での散策

のうかだいがく だいがく だいがく  
**ボゴール農科大学・ブラウィジャヤ大学・ガジャマダ大学 (インドネシア)**

こくさいかいはいはつがくぶんや きょうじゆ よね くら ひとし  
**国際開発学分野 教授 米 倉 等**

リンケージプログラム(ヒューマンセキュリティ・  
 プログラムの下で行われているダブルディグリー)  
 を共同実施しているブラウィジャヤ大学と、本学に  
 おいて9月24日に大学間協定を締結した。同大学か  
 らは、ビスリ学長以下、行政経営学部長、同学部  
 リンケージプログラム実施責任者など6名が来仙し  
 た。また同時に、次期リンケージプログラムに向け  
 て、契約改定のための交渉を行っており、インド  
 ネシア政府とのMOUおよびブラウィジャヤ大学  
 行政経営学部と実施細目に関する協定を締結する準備を進めている。2015年  
 前半に締結する予定である。2010年3月に、ボゴール農科大学と大学間、  
 パジャジャラン大学大学院とは部局間の協定を各々結んだが、  
 5年が経過するのでその延長のために3月に両校を訪問する予定である。  
 文系の短期留学受け入れプログラム IPLA を経済系で担当しており、ボゴール農科大学からは1名、  
 昨年10月から本年9月まで受け入れた。同じく大学間協定校であるガジャマダ大学とは、  
 農学部長ジャムハリ准教授(本学修士、農学博士)の協力を得て、  
 科研費により、高原地帯でのファーミングシステムの選択について、  
 今後3か年の予定で調査研究を開始した。



さとみそうちょう がくちょう だいがくかんきょうていちょういん ようす  
**里見総長とビスリ学長との大学間協定調印の様子**

しらかわひとしじゆんきょうじゆ にこくかん  
 白川仁准教授が、インドネシアとの二国間  
 交流事業共同研究「米糠の高度再資源化およびその健康機能応用に  
 関する国際共同研究」に採択され、交流を行いました。相手国共  
 同研究代表者である Bogor 農科大学・教授の Dr. Slamet Budijanto  
 と研究員の Dr. Nancy Dewi Yulianaおよび Bakrie 大学講師の Dr.  
 Ardiansyah が、6月26日に当研究科を訪問されました(写真)。



のうかだいがくきょうじゆ けんきゆういん およ  
**Bogor 農科大学教授と研究員及び Bakrie 大学講師が当研究科を訪問**

また、8月30日から9月6日までの期間で、  
 白川准教授と山形大学の小関卓也教授(共同研究者)がインドネシアの  
 ボゴール農科大学等を訪問しました。廃棄される部分の多い米糠の  
 有効利用についての学術交流が行われました。また、ビタミンKの  
 新規作用(抗炎症作用と性ホルモン産生促進作用)について、  
 セミナーを行い、Sedarnawati Yasni 教授、Puspo Edi Griwono 講師らと、  
 日本とインドネシアにおける食品科学教育の相違について意見交換  
 を行いました。国際共同研究のため、次年度も継続して交流が行われる  
 予定です。



のうかだいがく ほうもん  
**ボゴール農科大学を訪問**

かがく しぶ  
ロシア科学アカデミーシベリア支部 (ロシア)

えんげいがくぶんや じゆんきょうじゆ かな やま よし のり  
園芸学分野 准教授 金山喜則

ねん がつ にち にち  
2014年6月23日～28日にロシアのノボシビ

ルスクで開催された国際会議 The 9th International Conference on the Bioinformatics of Genome Regulation and Structure/Systems Biology に招待され、金山准教授 (農学研究科) 他1名が参加し、トマトのオミクス解析に関する講演およびポスター発表を行った。本会議は、協定先であるロシアアカデミーシベリア支部が主催するゲノム関連科学に関



かいぎ  
会議でのコーヒーブレイク

する伝統ある国際会議であることから、バイオインフォマティクスを利用したゲノム科学やシステムバイオロジーに関する有益な知見を得ることができた。同時に、ロシア科学アカデミーシベリア支部の細胞遺伝学研究所の Kochetov博士の研究室を訪問してセミナーを行い、研究室のメンバーと交流を深めることができた。さらに今後の共同研究に関する打合せを行った。なお今回の訪問は International Science & Technology Center のサポートによるものであり、この場を借りて謝意を表す。

ちえじゅだいがくこうのうぎょうせいめいか がくぶ かんこく  
濟州大学校農業生命科学部 (韓国)

どうぶつせいりかがくぶんや きょうじゆ か とう かず お  
動物生理科学分野 教授 加藤和雄

こんかい かいめ がくじゆつこうりゆう とうほくだいがくのうがく  
今回で3回目の学術交流を、東北大学農学  
けんきゆうかあまみや がつ か かいさい  
研究科雨宮キャンパスで7月3日に開催した。タイトルは、New Challenges for Animal Science Research。開会の挨拶を加藤が、最後の挨拶をかんこく けんこくだいがく 李さんらがくちょう おこな 韓国・建国大学の李相洛学長が行った。シンポジウム終了後には、全員で意見交換会を行い、じかい かいさい とうぎ おこな 次回の開催について討議を行った。シンポジウムでは、合計5名の研究者が講演を行った。



かいぎさんかしゃ しゅうこうしゃしん  
会議参加者による集合写真

すなわち、Prof. B.-G. Kim および Prof. K.-W. Lee (建国大学、韓国)、Prof. S.-G. Roh (東北大学)、Dr. M. Rose (Aberystwyth大学、イギリス)、Prof. C. Chen (Queensland大学、オーストラ

ア) の5名である。研究対象とした動物はマウスなどの実験動物からニワトリ、ブタ、ウシなどで、幅広く活発な議論が行われた。今回は、濟州大学の先生方は都合が付かず不参加となったが、第1回シンポジウムからの合意事項である「学術交流の拡大」を目指したミニシンポジウムであり、韓国以外の2国からの研究者が加わったことは特筆に値する(写真)。次回の開催は、ソウルでの開催を考えている。

たいわんたいべいい がく だいがくこうしゅうえいせいえいようがくいん たいわん  
**台湾台北医学大学公衆衛生栄養学院 (台湾)**

えいようがくぶんや きょうじゆ こま い みち お  
**栄養学分野 教授 駒 井 三千夫**

2014年9月8日、台北医学大学の陳俊榮教授と楊素卿教授が、学术交流協定の更新のために来所しました。台北医学大学からは2、3年ごとに大学院前期課程修了生または博士課程修了生が出ていると思います。短期留学生は毎年1名程度ありましたが、2014年度は該当者が居りませんでした。数人の当研究科の大学院生が個人的に訪問したようですので、公式に訪問できるよう、指導したところです。学术交流協定が更新されましたので、東北大学側からの短期留学も視野に入れた活動が必要だと考えております。



ちえんじゆんろんきょうじゆ がつかちょう こまいけんきゆうかちょう やんすーちんきょうじゆ  
**陳俊榮教授 (学科長)、駒井研究科長、楊素卿教授**

のうぎょうだいがく  
**モンゴル農業大学 (モンゴル)**

かんきょう せいぶつがくぶんや じゆんきょうじゆ た だ ち か  
**環境システム生物学分野 准教授 多田千佳**

2014年8月、モンゴル首都ウランバートルを流れるトール川河川水、および、その流域周辺の井戸や池の水の汚染について、2012年、2013年に引き続き調査を行うため、学部学生1名(高田萌さん)および教員2名(多田千佳、吉原佑)で、モンゴル農業大学を訪れた。今回は、これまで同様、河川水や池、井戸水の採水、放牧家畜の糞採取、また、モデル実験についてモンゴル農業大学の研究者らの協力のもと行ってきた。分析については、モンゴル衛生研究所のメンバーのご協力も得ることができ、また今回、たまたまモンゴル衛生研究所にアメリカから来た研究者らとも会うことができ、モンゴルの環境水について情報交換を行うことができた。私たちの研究結果について、調査時に判った範囲で、モンゴルの研究者らとディスカッションした。井戸水の微生物による汚染については、モンゴルの研究者にとってもショックだったようである。さらに、研究者だけでなく、これまで、モンゴル調査のドライバーとして多大なご協力を得ているドライバーのエルカさんのご自宅にもお招きいただき、ご家族とも交流ができた。皆さん、モンゴルの水環境について関心と不安をお持ちで、今後も



い ど みず く ようす のうぎょうだいがく  
**井戸の水を汲む様子 (モンゴル農業大学のニヤム先生とドライバー、吉原助教)**



のうぎょうだいがく がくせい よしはらじよきょう  
**モンゴル農業大学の学生さんと吉原助教**

是非モンゴルでの水環境研究を続けてほしいと言  
て頂いた。モンゴルでは、家長が馬乳酒やウオッカ  
で客を受入れ、杯を酌み交わしてお互いの交流を  
深める習わしがあり、その習わしに従った交流も  
深めることができました。



モンゴルの草原で虹を見つけた

## 施設見学会の実施

11月8日、農学部・農学研究科に在籍する留学生を対象とした  
施設見学会を実施しました。今年度は2014年6月にリニューアルオー  
プンしたばかりで、展示しているクラゲの種類では世界一の規模を誇  
る、山形県鶴岡市にある加茂水族館“クラゲドリーム館”を見学しま  
した。以下は参加者の感想です。

国際海洋生物科学コース

Dewi Tri Setyaningrum

This year International students of agriculture department visited Kamo Aquarium in Tsuruoka City, Prefecture Yamagata. We enjoyed the seal and sea lion feeding show, exhibition of Japanese freshwater and marine fish, and especially the Jellyfish. It was really a pleasure to see numerous kinds of Jellyfish. They float calmly just follow the flow, glow when you 'greet' them with light. It looked like that they wanted to tell me 'just be calm and keep moving'. Wow, there is always something we can learn from nature. The aquarium was a great educational place. It was also provided with lectures where we are introduced with Jellyfish's life history and their mysteries. The excursion program was fun because I can know something new in Japan while making friends from other countries.



加茂水族館 “クラゲドリーム館”にて

国際海洋生物科学コース

CHE, Leo J.

As a scientist and an artist, I've always believed that inspiration always comes from the world around me. However, it rarely actually comes looking for me. As a result, I always make it a point to

get around as much as possible so as to see as much of the world around me and increase my chances of finding inspiration. Coming to Japan on its own may already be satisfying to some who feel that simply being out of one's home country is sufficient, but I believe that actually taking the opportunities to go to different places, to see different things, and to learn about it all is definitely necessary to make the most of these chances. Learning and finding inspiration are both active processes, and being out there is a good way to start.

I was quite excited at the prospect of the trip to Kamo Aquarium, as I had yet to have a chance to get a good look at any public aquarium in Japan at the time, and was something I was hoping to do very soon, as a marine biology student. However, I must say that travel around Japan at this time of the year is fantastic, due to the changing of the color of the leaves and the beginning of the appearance of snow in the high mountains. It was a truly Japanese scenery, at least from my expectation. The three hour trip was a somewhat tiring, but the autumn view made it much more bearable.

The aquarium itself was a pleasant experience, especially given that they had recently transferred to their new building. The entry way was very well lit with the light coming in from the skylight, and the café there had a breathtaking view of the coast. I would've liked to see the sunset there, though time constraints didn't allow that. The animal displays were very engaging as well, with the thematic support of the animals making their presence feel much more natural. I was particularly happy with an impressive display of a large number of young salmon that simply formed a solid silver mass in the tank, without overcrowding them of course. Still, the main attraction of Kamo Aquarium was the jelly fish exhibitions, and they definitely do not disappoint. The displays definitely help viewers feel a certain proximity to the organisms, helping with the appreciation of the scale of these creatures. This was particularly notable with the display of the larger jellyfish, which are quite spectacular up close. I also particularly liked the jellyfish bar, where the various stages of the moon jellyfish's life cycle were on display. It was very well styled and a pleasure to look at. Finally though, I think the World of Jellyfish is probably the most impressive display, just for its sheer size and scale.

Finally, the jellyfish lecture provided by the aquarium staff was very enlightening. I have previously learned about jellyfish and their life histories in my home country, but being able to see and interact with these different stages was amazing. Also, actually seeing the firing of the nematocysts was breath taking, as that was something I've never had the privilege of seeing before. The frequency and the speed of the firing of the nematocysts were amazing. Hearing about the experience of the aquarium staff in their research of the jellyfish was also great, as details on their research experience gave some deeper insight into the effort that went into putting these exhibits together and definitely made me appreciate these exhibits more. It's always great to hear about the experience of different researchers in their line of work, as each is unique and exciting. All in all, the experience was very satisfying and gave me plenty to think about.



か も すいぞくかんふくかんちょうおくいずみかずや がくしゅうかい  
加茂水族館副館長奥泉和也さんによるクラゲ学習会



がくしゅうかいさんかしゃ ようす  
クラゲ学習会参加者の様子